

## ニュージーランドで ミツバチヘギイタダニ発見

中村 純

これまでミツバチヘギイタダニ（バロア病）の空白地帯であったニュージーランドで去る4月、ついにこのダニが発見された。ミツバチの輸出大国でもある同国にとって大打撃は必至である。発見からその後の対応までを、アメリカの養蜂雑誌 Bee Culture 誌の発行元 A. I. Root 社からの “Catch the Buzz Article” というニュース配信から拾った情報に基づいて解説した。なお現在は発見以降の詳細が下記 URL に掲載されている。

<http://www.beekeeping.co.nz/varroa/>

4月11日（火）に南オークランドの3蜂群からミツバチヘギイタダニが発見されたとの第一報が4月12日世界各地に向けて発信された。すぐに、現地対策本部が設立され、農水省の指導で5つの養蜂家のチーム（全国養蜂家協会 NBA が協力）による蜂群検査も開始された。その後の調査で、それぞれ10km 圏内のいずれも商業養蜂家ではない小規模な蜂場の14蜂群でダニが見つかった。そのうち8群はすでに全滅しており、その他の蜂群も蜂量が減少し、明らかなダニ寄生の症状と診断された。

この時点で、農水省は同地における蜂群移動を制限し、また移動経歴の調査を開始した。蜂群検査は商業養蜂家を優先し、感染が確認された場合、出入りの業者をたどって行うこととなった。さらに全国の養蜂家にダニの兆候がないかどうか調べるよう要請が出た。

いつ、どこにダニが持ち込まれたかはわかっていない。状況から見て過去5年、ダニがいたにもかかわらず発見されていなかったと考えられる。ダニは生きた蜂を介して伝播するがニュ

ージーランドでは少なくとも過去40年間ミツバチの輸入許可が下りたことはない。感染初期はダニの数が少なく確認するのは容易ではなく、ダニが増えて蜂群が死滅するまでには数年を要する。そのため最初のダニの上陸点を割り出すのは困難であろう。4月28日に、ダニは一部の養蜂家が女王蜂を郵便で持ち込んだことに原因があるとの公式見解が発表された。このような個人的な導入は現状では防ぎようがない。

その後の蜂群検査で、商業養蜂家（輸出業者を含む）も感染群を所有していることが判明し、当初の予想以上に悪い展開となっている。ミツバチの移動に伴ってダニが北島の全域および南島の一部に分布拡大していることが確認された。ダニの自然分布拡大は逃去、迷い込み、盗蜂などによって年間にせいぜい5km といわれている。したがって、今回の拡大に関しては、販売や転地による人為的な移動が明らかに重大な原因といえる。ニュージーランドでは蜂群の移動が比較的良好に記録されていることがせめてもの救いかも知れない。

5月11日までには、1632蜂場の31127蜂群が検査を終了し、59業者の177蜂場でダニが確認されている。

農水省の対策事業は100万ニュージーランドドル（5500万円）規模で、これを政府と業界が折半する予定。養蜂の衰退は畜産や他の農業分野に大きな影響が出るとして、養蜂業界はこの事業への援助を広範囲に打診している。

ニュージーランドは1999年に17500群の計り蜂をカナダとヨーロッパに輸出した。また女王蜂も相当数輸出している。今回のミツバチヘギイタダニの発見後は、輸出先にすでにこのダニがいるカナダや韓国、ヨーロッパに対しても出荷が停止される。農水省はダニ被害がどこまで広がっているかが明らかになり次第、輸出再開を模索する方向で、このため輸出停止はしばらく解除されないという見通しであったが、28日にカナダは受入を表明した。

今回、ダニの根絶に失敗すれば、ダニの空白地帯はオーストラリアだけとなり、輸出産業としての養蜂は大きな打撃を受けることになる。